

# 水産大学校の第2期中期計画

## 第2期の活動のポイント

- 第2期（H18～22年度）の教育研究活動（重点化方向）
- ・水産基本法の政策理念の実現に向け、水産業に関連する分野への人材供給を充実強化
  - ・農林水産省所管の高等教育機関としての独自性をさらに発揮するため、教育研究業務を重点化
  - ・水産関連分野への就職率75%以上を目標
  - ・役職員の身分を非公務員化

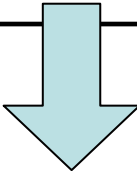
水産政策・流通・経営等を重視したカリキュラムを充実  
海や水産物、魚食に慣れ親しむための教育やインターンシップを強化  
水産行政・産業界へ貢献する研究活動の推進  
専攻科を目指す本科推薦入学制度等の充実と専攻科定員の見直し  
乗船実習カリキュラム等に対応した練習船の効率的・効果的運用

## 第1期（H13～17年度）の主な実績

- 受験倍率 5.0倍（5ヶ年平均（以下同じ）；本科）、定員充足率 101%（全体）  
学生は全国から；出身県：47都道府県  
水産関連分野への就職率 66%  
三級海技士免許等取得率 94%  
実学重視の教育を実施
- ・練習船による全学生を対象とした実習など海洋・水産の現場対応の教育を実施
  - ・水産行政・水産業界関係者による特別講義や企業等でのインターンの実施

# 水産大学校の役割

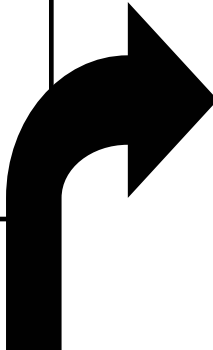
(設置目的)  
独立行政法人水産大学校法  
第3条  
「水産に関する学理及び技術の教授及び研究を行うことにより、水産業を担う人材の育成を図る」



**水産政策の課題**  
水産資源の適切な管理、漁場環境保全  
水産物の安全・安心の確保  
漁業、加工流通業及び関連業種の経営基盤の強化と改革  
各種施策の的確な遂行や水産業の改革の担い手育成(水産基本法第23条)

## 水産に貢献する人材を育成

水産の技術や経営、政策等に関する幅広い見識と技術を身に付けた人材  
農林水産省の下に設置された高等教育機関として、政策課題に対応し、実学に立脚した人材  
創造性豊かで水産現場での問題解決能力を備えた人材



沿革

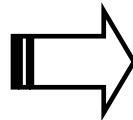
昭和16年	朝鮮総督府釜山高等水産学校設立
昭和20年	終戦にともない、引揚げ学生は水産講習所に転入学
昭和21年	水産講習所下関分所開設
昭和22年	第二水産講習所に改称、4学科設置(漁業、機関、製造、増殖)(昭和27年、水産講習所に改称)
昭和38年	水産大学校に改称
平成4年	学位授与機構により卒業生に学士(水産学)の学位を授与
平成6年	水産学研究科(修士課程相当)開設
平成9年	学科改組(水産情報経営学科の新設等)
平成13年	独立行政法人化

# 水産大学の教育課程

## 本科（定員 185 名）

期間 4 年、学士号（水産学）取得

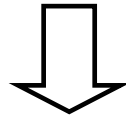
- 水産情報経営学科（定員 20）
- 海洋生産管理学科（" 45）
- 海洋機械工学科（" 45）
- 食品科学科（" 45）
- 生物生産学科（" 30）



## 水産学研究科（定員約 10 名）

期間 2 年、修士号（水産学）取得  
本科より高度な知識・技術を習得

- 水産技術管理学専攻  
（漁業技術管理学、機関工学）
- 水産資源管理利用学専攻  
（水産資源利用学、水産資源管理学）



## 専攻科（定員 70 名）

期間 1 年、三級海技士（航海、機関）筆記試験免除の資格  
入学資格：本科海洋生産管理学科（航海）又は海洋機械工学科（機関）にて所定の学科目及び航海実習を履修した者等

- 船舶運航課程（航海：定員 40）
- 舶用機関課程（機関：定員 30）

## 練習船

- 耕洋丸（1989ト）
- 天鷹丸（716ト）

## 実験実習場

- 田名臨海実験実習場
- 小野臨湖実験実習場